

# JSRグループ 企業倫理要綱

## 私たちの行動規範



### 目次

---

CEOメッセージ	①
企業倫理行動規範 —はじめに—	②
JSRグループの企業理念体系	③
経営方針「ステークホルダーへの責任」と 企業倫理行動規範	⑤
1. 顧客・取引先への責任	⑦
2. 従業員への責任	⑨
3. 社会への責任	⑪
4. 株主への責任	⑭
5. すべてのステークホルダーへの責任	⑮
JSRグループのサステナビリティ推進体制	⑰

---

# TOP MESSAGE

JSR グループの企業理念は Materials Innovation であり、「マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献する」というものです。1957 年に日本初の合成ゴムメーカーとして創業して以来、私たちはこの理念を維持してきました。精緻を極めた最先端テクノロジーカンパニーとして、企業理念に基づき科学の進歩と実用化を推進し、私たちは大切なステークホルダーの皆様との間で信頼関係を築き上げてきました。

世界は、環境、地政学、ビジネス、テクノロジーの分野で多くの課題に直面しています。JSR グループは困難な技術的課題の解決を通じて、顧客と社会にとって最良の結果を目指しています。私たちは、豊かな好奇心で、適応性の高い企業文化を通じて、この問題に取り組んでいます。このような企業文化の礎にあるのは、「最高の誠実さ」をもって行動するという倫理的な価値観にほかなりません。大切なステークホルダーの皆様から信頼されるパートナーであり続けるために私たちはこの価値観に従って、「正しいことをする」を実践することが何よりも大切となります。

「JSR グループ企業倫理要綱」に定められた「企業倫理行動規範」は、事業活動を行う上で JSR グループ全社員の指針となるものです。私たち一人ひとりが法令や倫理観に基づいて、「最高の誠実さ」をもって事業活動を行うために、日々守るべきことをまとめたものになります。

各行動規範は指針にすることはできますが、起こりうるすべての状況を網羅することはできません。最終的には、「正しいことをする」という、従業員の皆様の誠実さと判断力に会社は支えられております。もし、倫理面やコンプライアンス面で疑問が生じた場合や違反があると思う場合には、ぜひ声を上げてください。

2025年4月1日



代表取締役・CEO・社長執行役員  
堀 哲朗

# 企業倫理行動規範

—はじめに—

## 制定の目的

---

この行動規範は、JSRグループ各社が企業活動を展開するにあたり、経営方針「ステークホルダーへの責任」を果たすために、JSRグループ各社およびその役員、従業員（社員、嘱託社員、契約社員、パート社員、派遣社員）一人ひとりが遵守すべき行動規範として定めました。JSRグループは、役員、従業員にこの行動規範に反する行為を行うことはさせません。また、JSRグループは、役員、従業員がこの行動規範に反する行為を命じられ、その実行を拒んだ場合に、拒んだことを理由に当人が不利益を被るような扱いをしません。

## 構成

---

経営方針「ステークホルダーへの責任」の各項目である、「顧客・取引先への責任」、「従業員への責任」、「社会への責任」、「株主への責任」のそれぞれについて、各責任を果たすための行動規範を記載しています。更に上記各項目に加え、「すべてのステークホルダーへの責任」を果たすための共通の行動規範を、最後に記載しています。

## 適用範囲

---

「JSRグループ企業倫理要綱」の適用範囲は以下 HPに記載されているグループ企業とします。

国内： <https://www.jsr.co.jp/company/group.html>

海外： [https://www.jsr.co.jp/company/group\\_oversea.html](https://www.jsr.co.jp/company/group_oversea.html)

※ HPに掲載されている企業の内、JSRの資本比率が 50% 以上のグループ企業が対象

※ 対象のグループ企業において、JSRグループ企業倫理要綱に基づき、ローカルルールを加味した独自の要綱を持つケースがある。

※ 日本版の企業倫理要綱をベースとしていますので、日本以外の法律・コンプライアンスとの相違が想定される場合は、注釈をつけています。

# JSRグループの企業理念体系

## 企業理念

### *Materials Innovation*

マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。

## 経営方針

### 変わらぬ経営の軸

#### 絶え間ない事業創造

絶え間ない大きな社会ニーズの変化に対し、必要なマテリアルも変わり続けます。

JSRは今ある事業に留まることはなく、常に新たな事業を創造することで、社会ニーズの実現に貢献し、持続的な成長を達成します。

#### 企業風土の進化

変わり続ける社会ニーズへマテリアルを通じて応え続けるために、人材・組織は常に進化し続けます。

自身の良き風土は維持しながらも新しいものを取り入れ、進化するエネルギーに富んだ経営と組織を築き続けます。

#### 企業価値の増大

マテリアルを通じて事業機会を創出し、企業価値の増大を目指します。

そのためには、顧客満足度の向上と社員の豊かさの向上を重視し続けます。

### ステークホルダーへの責任

#### 顧客・取引先への責任

JSRグループの全顧客・取引先に対する責任です。

- 移り変わる時代の多様な材料ニーズに応えるため、変化への挑戦と進化を絶やしません。
- 顧客満足の持続的な向上を目指します。
- 全ての取引先に誠意をもって接し、常に公正・公平な取引関係を維持し続けます。
- サプライチェーンにおける環境・社会に配慮し続けます。

### 従業員への責任

JSRグループ全社員に対する責任です。

- 社員一人ひとりには公平な基準に基づき評価されます。
- 社員には常に挑戦する場を提供し続けます。
- 社員にはお互いの人格と多様性を認めあい、共に活躍する場を提供し続けます。

### 社会への責任

我々が生活し、働いている地域社会、更には全世界の人間社会に対する責任です。

- 地域社会の責任ある一員として環境・安全に配慮した事業活動(レスポンシブル・ケア)を行います。
- 地球環境負荷低減を含めた地球環境保全のニーズに対し、環境配慮型製品を提供し続けます。
- 製品ライフサイクル全体から発生する環境負荷の削減に努めるとともに、環境安全配慮を行います。
- 事業活動を通して、生物多様性の保全に積極的に貢献し続けます。

### 株主への責任

株主全体に対する責任です。

- マテリアルを通じて事業機会を創出し、企業価値の増大を目指します。
- 経営効率の向上を常に行います。
- 透明性が高く健全な企業経営を行うことにより、株主に信頼される企業となります。

## 行 動 指 針 : 4 C

### Challenge (挑戦)

JSRグループ社員一人ひとりにはグローバルな視点で、常に挑戦意欲を持ち続け自発的に新しいことに着手し、例えば失敗してもその経験を活かして次の成果につなげます。



### Communication (対話)

JSRグループ社員一人ひとりには共通の基本的価値観に基づき、グループ・会社の方針、部門の課題を透明性をもって共有し、同じ目標に向かって双方向の対話を重視しながら課題解決に取り組みます。

### Collaboration (協働)

JSRグループ社員一人ひとは、社内の組織の壁にとらわれない仕事の進め方を常に心がけ協力しあい、また、従来の発想にとらわれず積極的に社外との協働を取り入れて業務を進めます。

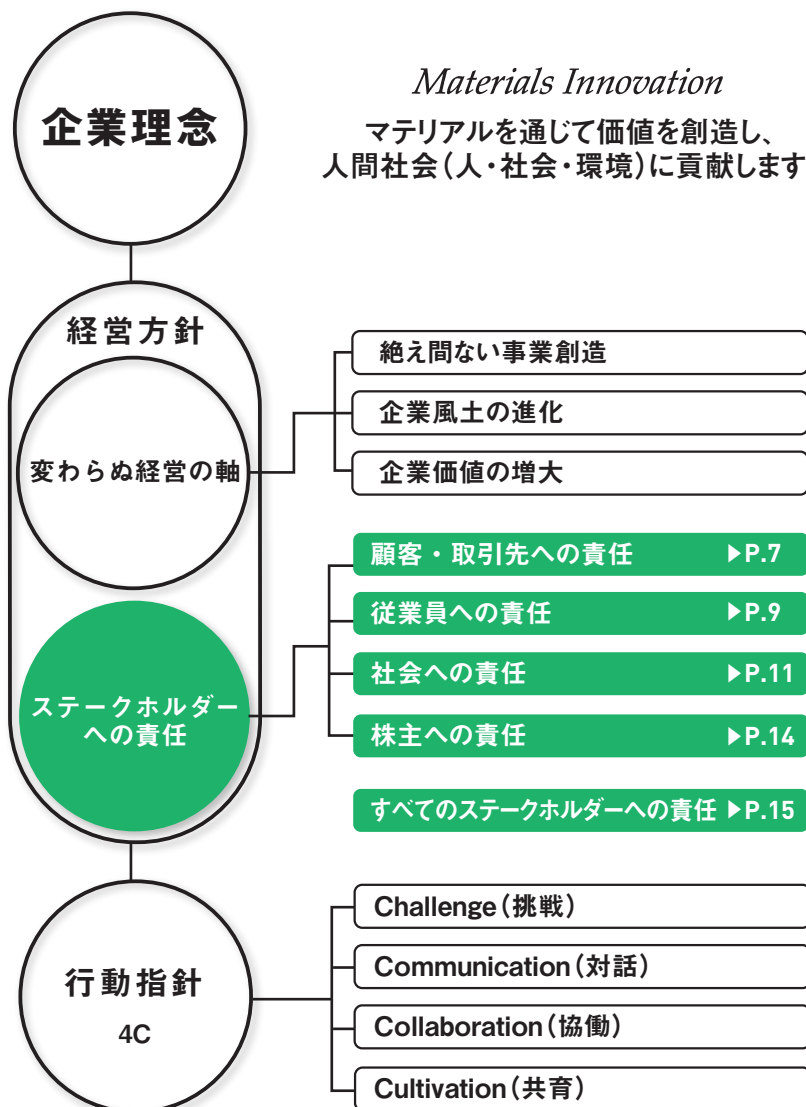
### Cultivation (共育)

JSRグループ社員は、上下双方向の対話を重視した人材育成を通じ、上司と部下が共に成長していきます。

# 経営方針

# 「ステークホルダーへの責任」

「すべてのステークホルダーへの責任」と15の企業倫理行動規範の関係を示します。



# と企業倫理行動規範

## 企業倫理行動規範

製品の安全性に関する行動規範 ▶P.7

公正、適正な取引に関する行動規範 ▶P.8

贈答・接待に関する行動規範 ▶P.8

働きやすい職場環境の確保に関する行動規範 ▶P.9

環境・安全に関する行動規範 ▶P.11

人権の尊重に関する行動規範 ▶P.12

リスク管理に関する行動規範 ▶P.12

社会貢献に関する行動規範 ▶P.13

反社会的勢力との係わりに関する行動規範 ▶P.13

国際社会との共生に関する行動規範 ▶P.13

適切な情報の記録と開示に関する行動規範 ▶P.14

インサイダー取引防止に関する行動規範 ▶P.14

公正な日常業務の遂行に関する行動規範 ▶P.15

JSRグループの財産の使用および知的財産に関する行動規範 ▶P.16

情報の管理に関する行動規範 ▶P.16

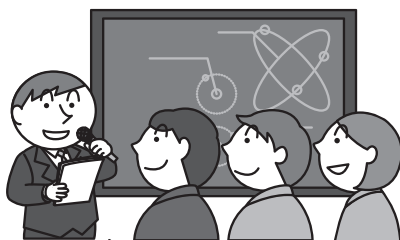
# 顧客・取引先への責任

## J S Rグループの全顧客・取引先に対する責任です。

- 移り変わる時代の多様な材料ニーズに応えるため、変化への挑戦と進化を絶やしません。
- 顧客満足の持続的な向上を目指します。
- 全ての取引先に誠意をもって接し、常に公正・公平な取引関係を維持し続けます。
- サプライチェーンにおける環境・社会に配慮し続けます。

### 企業倫理行動規範

## 「顧客・取引先への責任」を 果たすための行動規範



## 1 製品の安全性に関する 行動規範

事業活動を遂行するにあたり、製品の安全性に関する法令の遵守はもとより、製品に関する適切な情報を積極的に顧客に提供し、製品事故を未然に防止し、顧客との信頼関係を維持・向上させます。



## 2 公正、適正な取引に関する行動規範

- ①企業の事業活動に適用される日本および他の国の独占禁止法等の取引規制法を遵守します。
- ②下請法を遵守し、下請業者に対し下請代金の支払い遅延などの不当な行為を行いません。<sup>\*注1</sup>
- ③自らの技術や製品の輸出入が、国際的な平和、安全を脅かす事態や行為につながらぬよう、外国為替および外国貿易法等の輸出入関連の法令や規制に従い、輸出入管理を徹底します。
- ④フリーランス・事業者間取引適正化等法を遵守し、フリーランスに対する不当な取引、ハラスメント行為を行いません。<sup>\*注1</sup>
- ⑤購買取引においては、経済合理性に基づく透明で公平な取引を行うことを基本に、サプライチェーン全体で法令遵守、資源保護、環境保全、安全、人権等の社会的責任にも配慮します。

<sup>\*注1</sup> 自国の法律に従ってください。下請法は日本で適用されている法律であり、それぞれの国において当法律が存在しないケースもありますのでご注意願います。



## 3 贈答・接待に関する行動規範

不公正な贈答・接待  
は認めません



- ①国内外を問わず、政治家、公務員、公務員に準ずる立場の人、その他商業賄賂規制を含む腐敗防止関連法令において規制の対象となるあらゆる個人、法人その他の団体に対して、直接または間接を問わず、贈賄行為および営業上の不正な利益を得るための利益供与とみられる行為、約束を行いません。
- ②政治献金や各種団体等への寄付などを行う際は、政治資金規正法などの関係法令を遵守し、正規の方法に則って行います。
- ③取引先、関係先を含むすべてのステークホルダーとの間において、贈賄行為および公正さを疑わせる贈答・接待の授受を行わないことはもちろん、社会的常識の範囲を超える贈答・接待の授受を行いません。
- ④JSRグループ内において、贈答・接待を行ったり受けたりしません。

# 従業員への責任

## J S Rグループ全社員に対する責任です。

- 社員一人ひとりには公平な基準に基づき評価されます。
- 社員には常に挑戦する場を提供し続けます。
- 社員にはお互いの人格と多様性を認めあい、共に活躍できる場を提供し続けます。

### 企業倫理行動規範

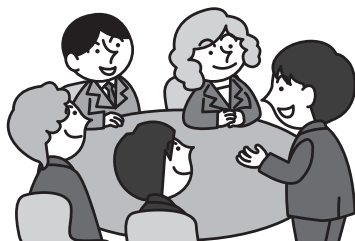
## 「従業員への責任」を果たすための行動規範

### 働きやすい職場環境の 確保に関する行動規範

.....

- ①従業員各人の仕事、役割、貢献度と整合性のとれた公正な人事・処遇を行います。
- ②従業員の多様な個性、価値観や考え方を尊重し、職場におけるすべての従業員が能力を最大限発揮できる働きがいのある職場環境を整備します。

より働きやすい職場へ



③個人の人權と人格を尊重し、性別、年齢、国籍、民族、人種、出身、宗教、信条、社会的身分、障がい、性自認や性的指向等を理由として雇用、労働条件で差別を行いません。

④お互いに宗教や信条を相手に強要しません。

⑤あらゆるハラスメントを排除し、公正な処遇が得られる職場を作ります。業務上の立場を利用したパワーハラスメントに該当する行為を行いません。また性的意味合いを持つ行為や発言により相手を不快にさせる、いわゆるセクシュアルハラスメントに該当する行為を行いません。

⑥「安全は製造業に働く全ての人にとっての最も大切なものであり、事業活動の大前提である」を第一義とし、すべての関係者の安全衛生レベルを維持向上します。



⑦法令や企業倫理要綱に違反ないしそのおそれがあることを職制（上司）や社内外のホットラインを通じて通報する従業員がいた場合、通報者の秘密を厳守しその人が不利な処遇を受けないよう保護します。

⑧ワークライフマネジメントを実現する柔軟な働き方が可能になる労働環境を整備し、生産性および従業員が働く満足度の双方を向上させます。

# 社会への責任

我々が生活し、働いている地域社会、更には全世界の人間社会に対する責任です。

- 地域社会の責任ある一員として環境・安全に配慮した事業活動（レスポンス・ケア）を行い続けます。
- 地球環境負荷低減を含めた地球環境保全のニーズに対し、環境配慮型製品を提供し続けます。
- 製品ライフサイクル全体から発生する環境負荷の削減に努めるとともに、環境安全配慮を行い続けます。
- 事業活動を通して、生物多様性の保全に積極的に貢献し続けます。

## 企業倫理行動規範

### 「社会への責任」を果たすための行動規範

#### 1 安全環境に関する行動規範

- ①無事故、無災害の操業を続け、従業員と地域社会の安全を確保し、社会との共生を図ります。
- ②製品の開発から廃棄までの全ライフサイクルにわたり環境負荷を低減し、環境の保全に努めます。
- ③すべての事業活動における化学物質の利用に関し、国内外の関係法令ならびに関連規制を遵守します。



環境を大切に

- ④地球温暖化防止と限られた貴重な資源の有効活用のため、すべての事業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物削減、再資源化等に積極的に取り組みます。
- ⑤我々の生活や事業活動を支える生物多様性について、維持・保全および持続可能な利用方法の採用に最大限の配慮を行います。

## 2 人権の尊重に関する行動規範

基本的人権を尊重します



- .....
- ①世界人権宣言等、国際的に宣言され、また各国の憲法や判例で保障された基本的人権を尊重・擁護し、基本的人権を侵害しません。
- ②国内外の労働関係法令を遵守するとともに、労働者の団結権、団体交渉を行う権利をはじめとする労働基本権を尊重します。
- ③JSR グループはもちろん、取引先や協力企業を含め、児童労働、強制労働は一切認めません。万が一児童労働を発見したときは、その児童を保護し、しかるべき機関に連絡して適切な対応を講じます。

## 3 リスク管理に関する行動規範

.....

会社に存在する顕在化した、または潜在的なリスクの把握に努め、リスクの未然防止とリスクが顕在化した場合の事業活動および社会への影響の最小化を目指します。

リスクの把握と  
防止を徹底



## 4 社会貢献に関する行動規範

- .....
- ①企業理念に基づき事業活動を通じて社会に貢献することに加えて、社会の責任ある一員として、社会的要請・社会的課題の解決に積極的に取り組みます。

- ②JSR が事業の基盤をおいている「化学・技術」の知識・技能を活かして、暖かみのある社会貢献活動に持続的に取り組みます。
- ③社員一人ひとりが社会との接点を持ち、自発的に社会貢献活動に参加することを積極的に支援します。



## 5 反社会的勢力との係わりに関する行動規範

反社会的勢力との関係については取引関係を含め一切遮断することを基本方針とし、反社会的勢力からの要求に対しては警察等外部専門機関とも連携し、経営トップ以下組織全体で毅然とした態度で断固拒否します。

## 6 研究倫理に関する行動規範

- ①企業活動と医療機関等との透明性を確保します。
- ②データの不正な利用を行いません。
- ③産学官連携で生じる利益相反について適切に管理します。
- ④人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針その他関連する法令・指針等を遵守します。
- ⑤日本および他の国の動物実験に関する法令、基本方針を遵守します。

## 7 国際社会との共生に関する行動規範

国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。

# 株主への責任

## 株主全体に対する責任です。

- マテリアルを通じて事業機会を創出し、企業価値の増大を目指します。
- 経営効率の向上を常に行います。
- 透明性が高く健全な企業経営を行うことにより、株主に信頼される企業となります。

### 企業倫理行動規範

## 「株主への責任」を果たすための行動規範

### 1 適切な情報の記録と開示に関する行動規範

- ①企業経営と事業活動に関する情報を適時適切に開示します。
- ②事業活動の実態を、成果だけではなくその成果達成の過程を重要視し、事実に基づき正確かつ明瞭に記録・記帳します。

### 2 インサイダー取引防止に関する行動規範

- ①業務上知り得た JSR グループまたは他企業の重要事実に関する情報を、私的利益のために使用しません。
- ②未公開の重要事実に関する情報を有する場合は、その情報が公開されるまで、情報を漏洩せず、JSR または当該他企業の株式等の売買を行いません。

インサイダー取引は  
絶対にしません



# すべてのステークホルダーへの責任

## すべてのステークホルダーに対する責任です。

■我々は、社会的信用や会社の品格等の無形のものも含む、JSRグループのあらゆる企業価値の毀損を防止します。

### 企業倫理行動規範

## 「すべてのステークホルダーへの責任」を 果たすための行動規範

### 1 公正な日常業務の 遂行に関する行動規範

.....



- ①商取引等を通じて、自らが不当な利益を享受することを目的とした不正な取引を行いません。
- ②職務に関する事項について、正確に記録・記帳するものとし、虚偽または架空の記録・記帳をしません。
- ③JSR グループの役員・従業員は、JSR グループとの利益相反を生じる、または生じるおそれのある行為をしてはなりません。もしこのような状況が生じた場合には、取締役会または上司に対してその旨を報告しなければなりません。



## 2 JSRグループの財産の使用 および知的財産に関する行動規範

①JSRグループの施設、機械、器具  
および物品を効率良く活用する  
とともに、自己の利益のために不  
正に使用する等の公私混同をしま  
せん。

②JSRグループの保有するノウハウ・  
特許・実用新案・意匠・商標等  
の知的財産を保護するとともに、  
他者の知的財産権を尊重します。



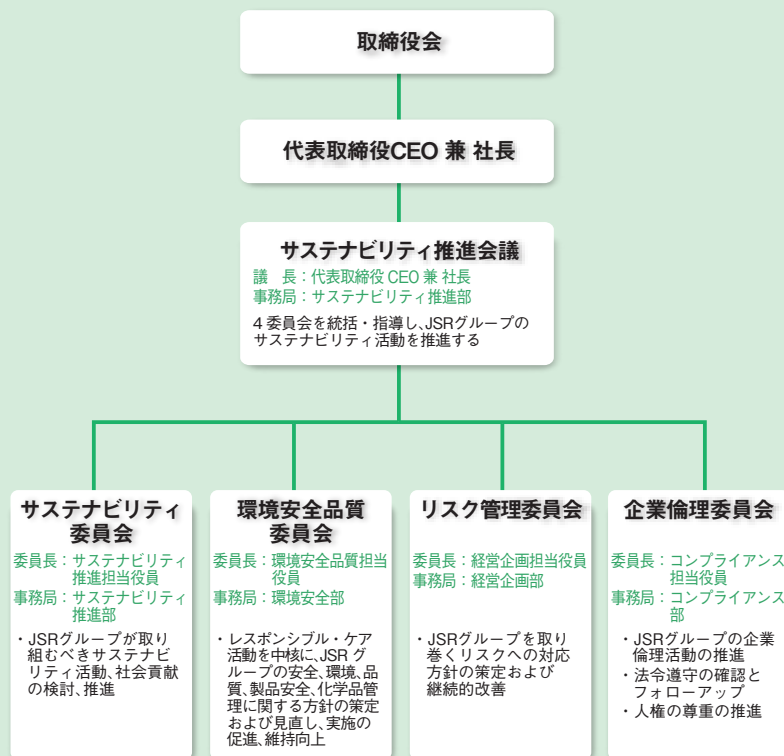
## 3 情報の管理に関する 行動規範

秘密情報の漏洩・  
不正使用はしません



- ①事業活動に必要な情報を不正な手段で取得  
しません。
- ②JSRグループおよび顧客や取引先等第三  
者の秘密情報について、漏洩防止、不正使  
用、不正開示の排除等、情報管理の徹底に  
努めます。
- ③在職中または離職した後、在職中に得た秘  
密情報を不正に他人に提供したり、個人の  
利益のために使用しません。
- ④日本および他の国の個人情報保護に関する  
法令を遵守し、役員・従業員または取引先  
等第三者の個人情報の不正取得、不正利用、  
不正開示等を防止します。

## JSRグループのサステナビリティ推進体制



### グローバル・コンパクトの10原則

## 国連グローバル・コンパクト

JSRグループは、2009年4月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。

企業の社会的責任が強く求められる中、グローバルに事業活動する企業として、グローバル・コンパクト10原則が謳う人権・労働・環境・腐敗防止へのより一層の配慮が必要となっています。

私たちは、グローバル・コンパクトへの参加を国際社会の中で責任ある行動を実践するための「宣言」と位置づけ、より積極的に「企業の社会的責任」を果たしていきます。

- ① 人権擁護の支持と尊重
- ② 人権侵害への非加担
- ③ 結社の自由と団体交渉権の承認
- ④ 強制労働の排除
- ⑤ 児童労働の実効的な廃止
- ⑥ 雇用と職業の差別撤廃
- ⑦ 環境問題の予防的アプローチ
- ⑧ 環境に対する責任のイニシアティブ
- ⑨ 環境にやさしい技術の開発と普及
- ⑩ 強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み



沿革

1999年	1月	1日	制定	2014年	10月	1日	改定
2005年	4月	1日	改定	2015年	10月	1日	改定
2007年	1月	24日	改定	2017年	10月	1日	改定
2008年	9月	1日	改定	2018年	9月	1日	改定
2010年	10月	1日	改定	2021年	1月	1日	改定
2011年	7月	4日	改定	2023年	1月	1日	改定
2013年	5月	1日	改定	2024年	3月	15日	改定
2013年	9月	1日	制定	2025年	7月	1日	改定

2025年 7月 発行  
JSR企業倫理委員会

